

Catalogue No.

20153-13



伊勢おかげの里

## 五十鈴茶屋

職人という造形の名手たちは、  
日本の新しいカタチや美を創りあげていく。

五十鈴茶屋

すべては人との出会いからはじまる

用美：私ども用美というブランドをさらに進化させていきたいと思っています。先生のご意見をお聞かせください。

前田：かつて日本では、柳宗悦が民芸品に注目して「用の美」を唱え、素晴らしい雑器を創りだした時期もありましたが、結局、失敗に終わりました。あまりに作家性が強くなり、高い値段で売買されるようになったため、続かなくなったのです。作家だから美を創りだせるのかと言うと、そうでもないですね。用美の素晴らしいところは、大量生産により安価な製品を世に送り出しているところです。これだけの体制で大量生産をしているところは他にはありません。作り手が神経を注げば、たとえ300円でも美を手に入れることができるのです。用美さんのように伝統技術が息づく土壌だからこそ、可能なことがあります。名もない職人たちが法隆寺を創りあげたように、用美のような確かな腕をもつ職人たちが、日本の新しいカタチや美を創りあげていくのだと期待してやみません。